

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 青木高光 所属: 長野県稲荷山養護学校 記録日: 平成 29 年 2 月 11 日  
キーワード: 知的障がい、文章作成、映像記録

## 【対象児の情報】

- ・学年 中学 3 年生
  - ・障害名 知的障がい、肢体不自由、視覚障がい
  - ・障害と困難の内容
- 生活・コミュニケーション面
- ・ 質問内容を理解しないまま、何に対しても「はい」と答えてしまうことが多く、コミュニケーションや学習が成立しないことがある。
  - ・ 行動に時間がかかり、自分の力で最後までやりとげようという意欲が薄い。
  - ・ わからないことを訊く、助けを求める、などができず援助待ちになりやすい。
  - ・ 社会的な経験不足から、人との関わりが一方的で、ひとりよがりになりやすい。
- 学習面
- ・ 3、4 年生程度の漢字の読みができるが、読めるほどには内容を理解していない。
  - ・ 上肢の障害や弱視のため、書写が苦手。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい
  - ・ 本人が慣れていて、好きな学習内容(植物観察日記や、写真絵日記など)を繰り返しながら、少しずつ新しい課題を上乗せしていくことで、意欲を保ちつつ、自分から学習に取り組めるようになる。
  - ・ 学習中に発表の機会を多く取り入れていくことで、文章表現の正確さや、他者の発言内容の理解を確実にしていく。
- ・実施期間
  - ・平成 28 年 4 月から平成 29 年 2 月
- ・実施者
  - ・青木高光、学級担任(伊藤)
- ・実施者と対象児の関係
  - ・自立活動専任として、対象児と担任のサポートを行う。必要に応じて ST として授業参加

## 【活動内容と対象児の変化】

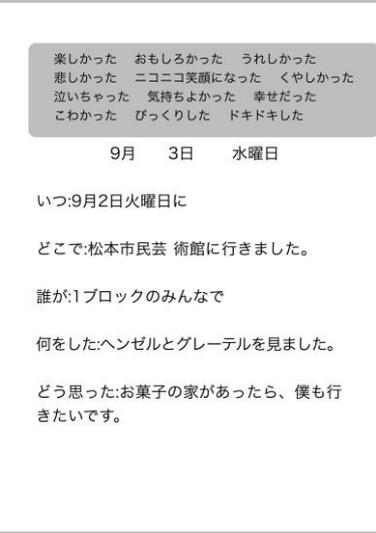
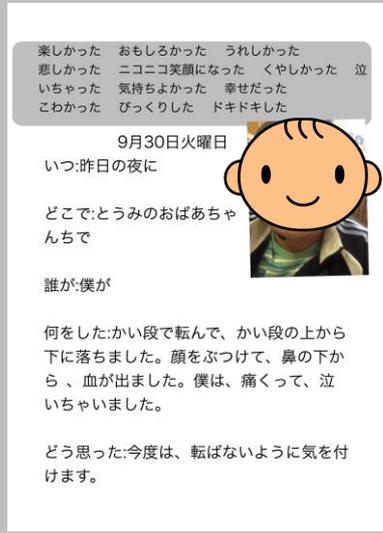
- ・対象児の事前の状況
  - ・ 昨年までの iPad 活用を通して、日記の内容に変化(5W1H を意識できるようになってきたこと、事実の羅列だけでなく、自分の感情を入れることができるようになってきたこと、客観的な視点を入れることができるようになってきたこと、など)が出てきた。
  - ・ 学校では日記を書く時間が限られているため、十分な時間をかけて自分の気持ちを綴ることができないでいた。
- ・活動の具体的内容
  - ・ 自分専用のタブレットを常時携帯することで、日常の学習成果の蓄積と振り返りが簡単にできるようにする。
  - ・ 家で起きたことや、外出先で経験したことなど、プライベートな写真も保存できるようにすること、それを学校で担任と一緒に見て賞賛したり、話題にしたりすることで、映像記録への意欲を高める。

・ 対象児の事後の変化

指導前半(4月～9月)の支援の手立てと実施期間の概要

①昨年・iPad の日記導入期	②昨年末	③今年・個人用 iPad 導入	④夏休み中
<ul style="list-style-type: none"> <li>5W1Hを意識し、各要素を記述できるように、あらかじめ「いつ」「どこで」「誰が」「何をした」「どう思った」を入れた日記用テンプレートを作成した。</li> <li>文章の中に盛り込むことが苦手だった、感情表現の言葉を想起しやすいように「楽しかった」「面白かった」「うれしかった」などの単語をあらかじめ並べておいて、選べるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水耕栽培の活動を取り入れて、観察対象を明確にすることで、対象の色や形などを具体的に記述することを意識できるようにする。</li> <li>日記の内容についてやり取りすることを通して、新たに「ムツとした」などの感情表現をテンプレートの中につけ加えていった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPadを対象生専用にし、毎日家に持ち帰る。</li> <li>自分でたくさん写真を撮ることを推奨し、撮った写真を定期的に担任と一緒に見て、よく撮れているものを褒めたり、写したものについて質問をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットで休み中の生活記録をつけることを宿題にする。</li> </ul>

① 昨年・iPad の日記導入期

 <p>楽しかった おもしろかった うれしかった 悲しかった ニコニコ笑顔になった くやしかった 泣いちゃった 気持ちよかった 幸せだった こわかった びっくりした ドキドキした</p> <p>9月 3日 水曜日</p> <p>いつ:9月2日火曜日に</p> <p>どこで:松本市民芸術館に行きました。</p> <p>誰が:1ブロックのみんなで</p> <p>何をした:ヘンゼルとグレーテルを見ました。</p> <p>どう思った:お菓子の家があったら、僕も行きたいです。</p>	 <p>楽しかった おもしろかった うれしかった 悲しかった ニコニコ笑顔になった くやしかった 泣 いちゃった 気持ちよかった 幸せだった こわかった びっくりした ドキドキした</p> <p>9月30日火曜日</p> <p>いつ:昨日の夜に</p> <p>どこで:とうみのおばあちゃんちで</p> <p>誰が:僕が</p> <p>何をした:かい段で転んで、かい段の上から下に落ちました。顔をぶつけて、鼻の下から、血が出ました。僕は、痛くて、泣いちゃいました。</p> <p>どう思った:今度は、転ばないように気を付けます。</p>
<p>支援者のとらえ:5W1Hのテンプレートを導入することで、各要素を意識して文章を作成できるようになった。「お菓子の家があったら、僕も行きたい」といった、独自かつ素直な感想を入れられるようになってきた。</p>	<p>支援者のとらえ:自分で撮った怪我の写真を入れるなど、日記に貼り付ける写真を工夫するようになった。</p>

②昨年末(水耕栽培のまとめ)

<p>楽しかった おもしろかった うれしかった 悲しかった ニコニコ笑顔になった くやしかった 泣いちゃった 気持ちよかった 幸せだった こわかった びっくりした ドキドキした ムツとした さみしかった</p> <p>3月 12日 木曜日</p> <p>いつ:昨日の6時間目に支援室のレタスを見に行きました。行ってみるとレタスの葉っぱがずごく大きくなっていました。そして、レタスの葉っぱをちょっとだけハサミで切りました。切った瞬間にシャキッと音がしました。レタスを切って教室の1年の部屋で、1年の朋花ちゃんと僕とももかさんの3人で、レタスを食べました。美味しかったです。</p>	<p>楽しかった おもしろかった うれしかった 悲しかった ニコニコ笑顔になった くやしかった 泣いちゃった 気持ちよかった 幸せだった こわかった びっくりした ドキドキした ムツとした さみしかった</p> <p>2月 5日 木曜日</p>  <p>いつ:昨日の6時間目に支援室にレタスの葉っぱを見に行きました。昨日見に行ったら、レタスの葉っぱが生えていました。大きさは、まだ小さいです。僕の小指みたいにまだ小さいです。レタスがもっと大きくなったら、食べます。支援室に早く行きたくて、しょうがなかったです。レタスのメが、出てきて嬉しかったです。次見に行く時にメがもっと大きくなったら、嬉しいです。</p>
<p>支援者のとらえ:すでにテンプレートの5W1Hにとられることなく、観察した事実や、友達の関わりを自由に豊かな文章で叙述するようになっている。</p>	<p>支援者のとらえ:「支援室に早く行きたくて」などのように、観察対象への愛着が読み手に伝わってくる、的確表現できるようになっている。</p>

③今年・個人用 iPad 導入

<p>6月29日水曜日</p> <p>毎日、お母さんが東御のおばあちゃん家で、ぶどうのお仕事をしています。この写真は、ハサミで、ぶどうの粒を取っている様子です。ぶどうの粒は、全部で60粒くらいついているのを33粒にしています。</p> <p>お母さんが「とっても、大変なお仕事なんだよ。」と書いていました。僕の思いは、「早くぶどうを美味しく食べたいよー」と思っているよ。</p> 	<p>7月5日火曜日</p> <p>今日の夕方 いとこの[ ]の野球の試合を見に行きました。[ ]は、大きな声を出して頑張っていました。それを見て僕は、「[ ]は、やっぱり頑張ってるなー」と思いました。この試合は、夕方の5時に始まったので、グラウンドの電気は、もうついてありました。太鼓の音も聞こえてきて、にぎやかでした。あと、野球の選手は頭にかぶっている帽子を外して、僕に「こんにちは」と大きな声で、挨拶をしてくれました。僕は、嬉しい気持ちでした。あと、野球の選手のかばんが、きれいに並んでいました。やっぱり、野球の選手はすごいなーと感じました。</p> 
<p>支援者のとらえ:家族や身近な人の生き生きした活動の様子がわかる写真が入るようになった。また、ぶどうの粒の数など、具体的な表現が入るようになっている。農作業に取り組む母親の写真もとても綺麗に撮影できている。</p>	<p>支援者のとらえ:いとこの野球の試合観戦に行った時のエピソードが生き生き表現されている。野球の試合自体よりも、スポーツに取り組むいとこや選手たちへのあこがれのような表現が繰り返されていることが、対象生の素直な気持ちの表れであると分析できる。</p>

#### ④夏休み中



7月24日  
日曜日

題名: 「上田城流籠馬に行ったよー」

思ったこと:今日は、上田城で流籠馬を見に行きました。待っている間は、とても暑かったです。暑かったので、ペットボトルのジュースを少しずつ飲みました。いよいよ流籠馬が始まって、男の人や女の人が

馬に乗って登場しました。その時は、お客さんみんなで拍手しました。そして、男の人が馬に乗って、弓矢でマトの真ん中に当たるように弓矢を引いてました。そして、成功した時は、お客さんみんなで大きな声で「おお〜」と叫びました。失敗した場面もいっぱいありました。でも、集中して弓矢を引いてました。今日は、暑かったのでお父さんがセブンイレブンでアイスを買ってくれました。その時は、嬉しい気持ちでした。あと、流籠馬の会場はものすごく暑かったので、僕の背中汗でいっぱいだったのでお母さんがうちわであおいてくれました。今日は、岩井屋さんに行く予定だったけど、流籠馬に行きました。岩井さんに行けなくて残念です。

8月 5日 金曜日



題名: 「花火大会に行ったよ」

去年の花火大会に行く時は、小牧のおばあちゃん家の自転車で行ったけど、今年の花火大会は、自分の車イスで、行きました。早く着いたので、セブンイレブンで焼きそばと唐揚げを買って食べました。花火大会が始まる前に、ちょっとだけ食べました。美味しかったです。花火大会が始まったのは、夜の7時です。花火大会では、真田丸

の曲に合わせて花火を打ち上げました。打ち上げた時は、お客さんみんなで「おお〜」と言いました。僕も、すごいな〜と思いました。シートを引いて床に座って写真を撮ったり、ビデオを撮ったり忙しいです。でもうまく撮れました。撮れて嬉しいです。花火大会が終わったのは、8時30分です。

8月16日火曜日  
送り盆をしたこと。

今日の夜に加沢のおばあちゃん家で送り盆をしました。送り盆では、わらに火をつけておばあちゃんと拓夢(僕のお兄さん)と一緒に大声で、「盆さん盆さんこのあかしで、お帰りのよー」と言いました。久しぶりにみんなと会えて僕は嬉しかったです。その後には、加沢の家の中にいてあとのみんなは、加沢のおじいさんのお墓に行きました。「僕も行きたかった〜」と思いました。でも、お母さんが「お墓は、危ないよー」と言ったので、僕は行けませんでしたが、でも、僕は加沢の家で、テレビを見てたのでさびしくなかったです。



休み中の日記は、担任が途中でアドバイスを加えることは全くなかったが(保護者にも確認したが、手助けはしなかったとのこと)、取り上げるエピソードは多岐に渡り、文章の表現も写真レベルも向上していた。

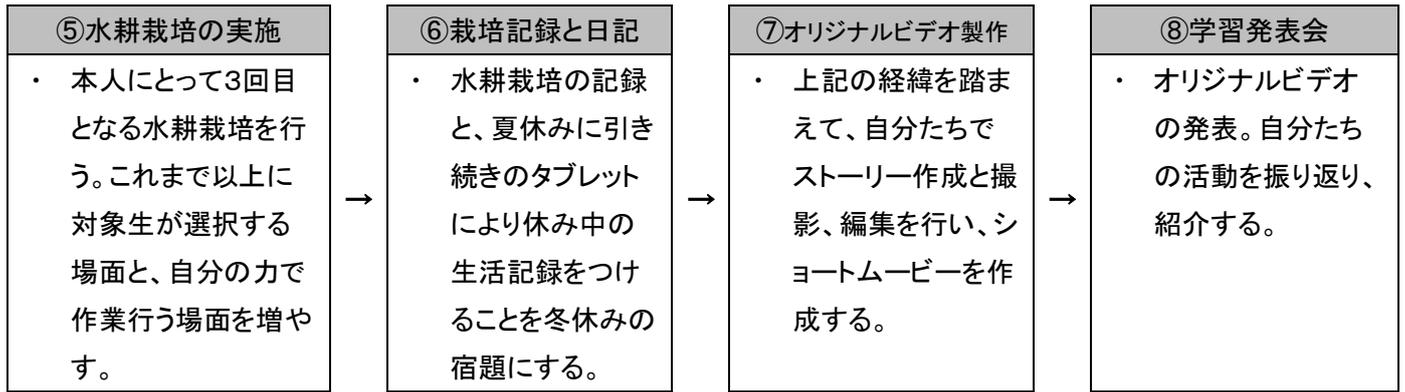
対象生の日記への意欲や、文章表現力の向上がはっきりわかる内容になってきている。学級担任からは、日記に意欲的になり、iPadを毎日持ち帰ることを喜んでいる。特に週明けに休日の日記を喜んで見せてくれるようになった(逆に、学習内容の確認や日記の文章を保存して分析するために、一度週末にiPadを学校で預かると伝えたら嫌がった)という報告を受けた。

以上の学習面の成長を踏まえて、担任と年度後半の学習計画を立案していく中で、対象生と一緒に国語の時間で日記を書いたり、水耕栽培に取り組んだりしてきた同じクラスのRさんが「iPadの中で見られる物語を作ってみよう」という希望を伝えているという話が出てきた。対象生も、具体的なイメージは持っていないが、Rさんの意見に興味をもっているようであった。友達の発想や意見から自然な形で影響を受けることは良いことなので、二学期の学習に取り入れてみたいと考えた。

当初は、レゴのストーリースターキッや、マイクラフト(R生がすでに好んで遊んでいる)を取り入れて、オリジナルストーリーを創作することで、叙述力の向上が狙えるのではないかと、検討を重ねたが、対象生にとっては馴染みが無い物なので、もっと身近な事物をテーマに物語を考えてみようということになった。

その中から、R生は「自分が集めている動物のマスコット」を、対象生は大好きな「ミニカーのコレクション」を学校に持参し、それぞれ好きな物語を考えてみることにした。そのような取り組みを経て、これらの物を主人公として動かすために、コマ撮りアニメーションを作ろうということになった。アニメの台本を考え、撮影の試行錯誤をしているうちに、二人の好きな要素を組み合わせた話にして、学習発表会でクラスの友達や家族に発表しようという意見がまとまった。

指導後半(9月~2月)の支援の手立てと実施期間の概要



⑤水耕栽培の実施

初回はレタス、2回目はミニトマトを育てたので、今回は新たにオプションの種床を購入し、ラディッシュやかかぶを育てられる状況を整えた。これまでと違うタイプの作物を育てることで、過去の野菜の成長記録との比較からの発見や、新たな自分なりの気づきを文章化していけることが期待できると考えた。対象生は、結果的に「これまでとは違うレタスを育てて、味を比べてみたい」という自分なりの選択をすることができた。担任も独立したキットを使うこと勧め「先生はかぶを育てなよ」という発言をしたところが、これまでにない、非常に興味深い姿だった。



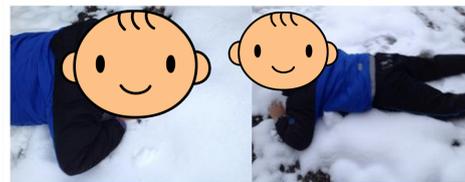
⑥栽培記録と日記

栽培日記はこれまで以上に内容がしっかりしたものになり、冬休みの日記は、夏休み同様に丁寧に撮影した写真と、自分なりに表現を工夫した叙述が並ぶものになった。

10月19日 月曜日



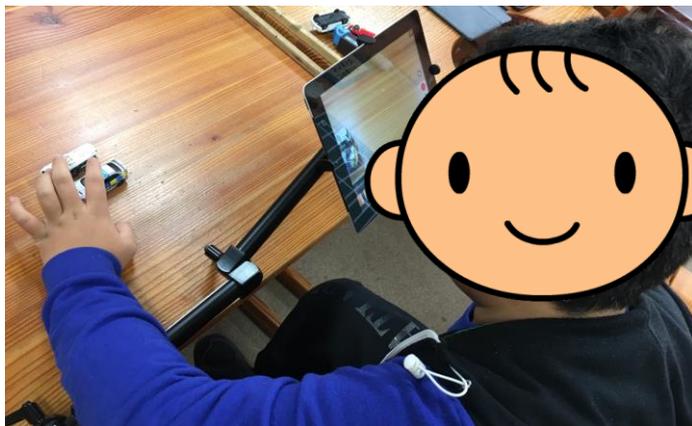
6時間目の国語の時間にレタスを植えに行きました。それで、僕が思ったことは「また、レタスを植えられて嬉しい」と思いました。レタスを植える前には、レタスの種をスポンジの中に入れて、次に栄養水を入れました。その後支援室の横の辺りに置いてあるトレイの中にレタスの種が入っているケースをトレイの中に入れました。そこで、青木先生がレタスの種がきちんと見えるようにトレイの中にある電気を付けていました。それで、タブレットでレタスの種を写真で、撮りました。また、レタスを植えられて僕らの笑顔は、稲養祭の時みたいに、ニコニコ笑顔になりました。これからレタスには、大きくなってほしいです。



雪で遊んだよ。  
雪がいっぱい降ったので、家に帰って雪で遊びました。雪の中に顔を突っ込んだり、雪の塊を道路に投げたりしました。雪に触ると冷たかったです。でも、楽しかったです。また、雪がさくたん降ったらまたやりたいです。本当に楽しかったです。

⑦オリジナルビデオの製作

自分のミニカーコレクションを持参し、コマ撮りを試しながら、物語を考えていった。実際に動かすことでイメージが欢喜されたのか、初めてオリジナルのストーリーを書くことができた。



一緒にレースしようぜ  
 オッケー  
 レースに勝った方がりんごをもらえるよ。  
 「僕は、りんごが好きだから絶対に負けられない」と赤い車が言いました。  
 すると、白い車が  
 「私もりんごが好きだから私も、絶対に負けられない」と言っていました。  
 このレースは、白い車が勝ちました。  
 白い車が勝ったので、白い車がりんごを食べました。  
 白い車が「美味しい。」と言っていっぱい食べていました。  
 赤い車が「悔しい」と言って泣きました。赤い車が泣いていたので、白い車が「大丈夫だよ。今度は一緒に勝って、一緒にりんごを食べようね。」と言いました。

コマ撮りアニメの製作風景

最初に書いたストーリー

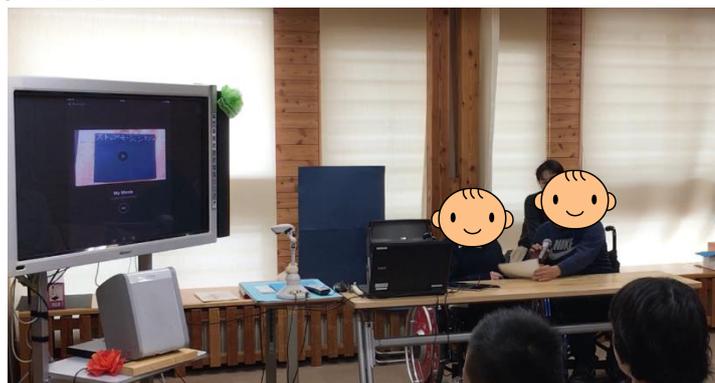


オープニング



動物の人形が動く場面

⑧学習発表会



2月11日に行われた学習発表会で、R生と共に「ストップモーションアニメ」の発表を行った。対象生が進行し、自分たちがタブレットを使って様々な勉強をしてきたこと、その集大成としてオリジナルアニメを制作したことなどをR生が丁寧に説明した後、ビデオ上映を行った。観客の受けを狙った場面では、しっかり笑いをとることができた。

特に最後の場面で、主人公たちが登っていた山が、実は振り返ると対象生の頭だった場面では大きな笑いが起きた。自分をネタにしてオチを作った対象生も満足気で、和やかな雰囲気の中で、友達や保護者から賞賛を得ることができた。



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

指導の経緯の中で記したように、対象生の活動の様子や、学習の成果に以下のような変化がみられた。

#### ① 写真撮影への意欲・他者視線への意識

自分で撮影したもの、他者に自分を撮影してもらったもの共に、その日の様子がよくわかり、日記の内容を補完する写真になっている。

#### ② 文章表現力の向上

冬休みの日記の例にあるように、単に「楽しかったです」で終わるだけでなく、その前に雪で遊んだ内容や、雪の感触の叙述が入るようになった。また、初めて書いた台本は、形式は整っていないが、登場人物の会話によるやりとりが読み手に理解できる書き方ができている。

#### ③ 自己選択、自己決定できる場面の増加

栽培する野菜の選択や、自分で考えたストーリーなど、これまでであれば、友達や先生の考えに引っ張られることが多かった場面で、自分の意見を持つことができるようになった。

### ・エビデンス(具体的数値など)

学習発表会終了後、対象生は以下のような日記を書いた iPad を、自立活動専任室に持参してくれた。タブレットを使うことの自分にとっての価値や、ビデオ制作で感じたことなどが過不足なく入り、まとまった文章になっていると言えるだろう。このような姿からも、意欲や文章表現の向上は明らかだと考える。

2月15日(水)

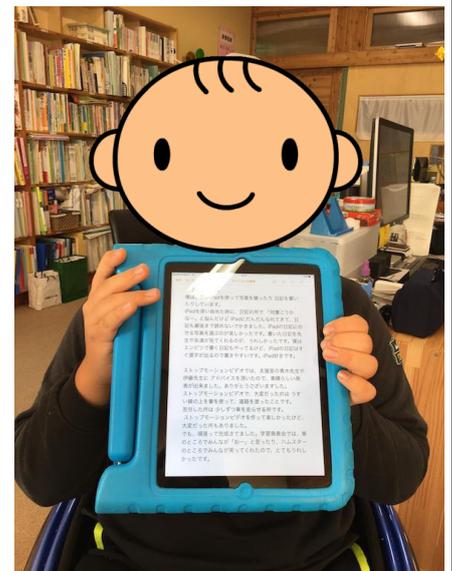
僕は、この iPad を使って写真を撮ったり 日記を書いたりしています。

iPad を使い始めた時に、日記の所で「何書こうかなー」と悩んだけど iPad にだんだん慣れてきて、日記も最後まで諦めないでかきました。iPad の日記にのせる写真を選ぶのが楽しかったです。書いた日記を先生や友達が見てくれるのが、うれしかったです。僕はエンピツで書く日記もやってるけど、iPad の日記はすぐ漢字が出るので書きやすいです。iPad 好きです。

ストップモーションビデオでは、支援室の青木先生や伊藤先生にアドバイスを頂いたので、素晴らしい発表が出来ました。ありがとうございました。

ストップモーションビデオで、大変だったのは うすい線の上を筆を使って、道路を塗ったことです。苦労した所は 少しずつ車を走らせる所です。ストップモーションビデオを作って楽しかったけど、大変だった所もありました。

でも、頑張って完成させました。学習発表会では、車のところでみんなが「おー」と言ったり、ハムスターのところでみんなが笑ってくれたので、とてもうれしかったです。



### ・その他エピソード(画像などを含めて)

保護者は、これまでの学習の成果から、iPad を用いる効果を実感してくれている。夏休みの外出に常に iPad を携帯させてくれたことは、保護者が意識的に活用を支援していることの表れだと考えられる。高等部に進学後は、就学奨励費のタブレット購入用加算を用いて、個人の学習用タブレットの購入を勧める予定である。

こういった保護者の理解が得られたのは、活動の区切りごとに学習の成果をきちんと担当が伝えてきたこと、さらにタブレットの中のデータとして蓄積して、保護者も確認できるようにしてきたことの結果だと考えられる。